

岩手県感染症週報

平成29年第1週(1月2日～1月8日)

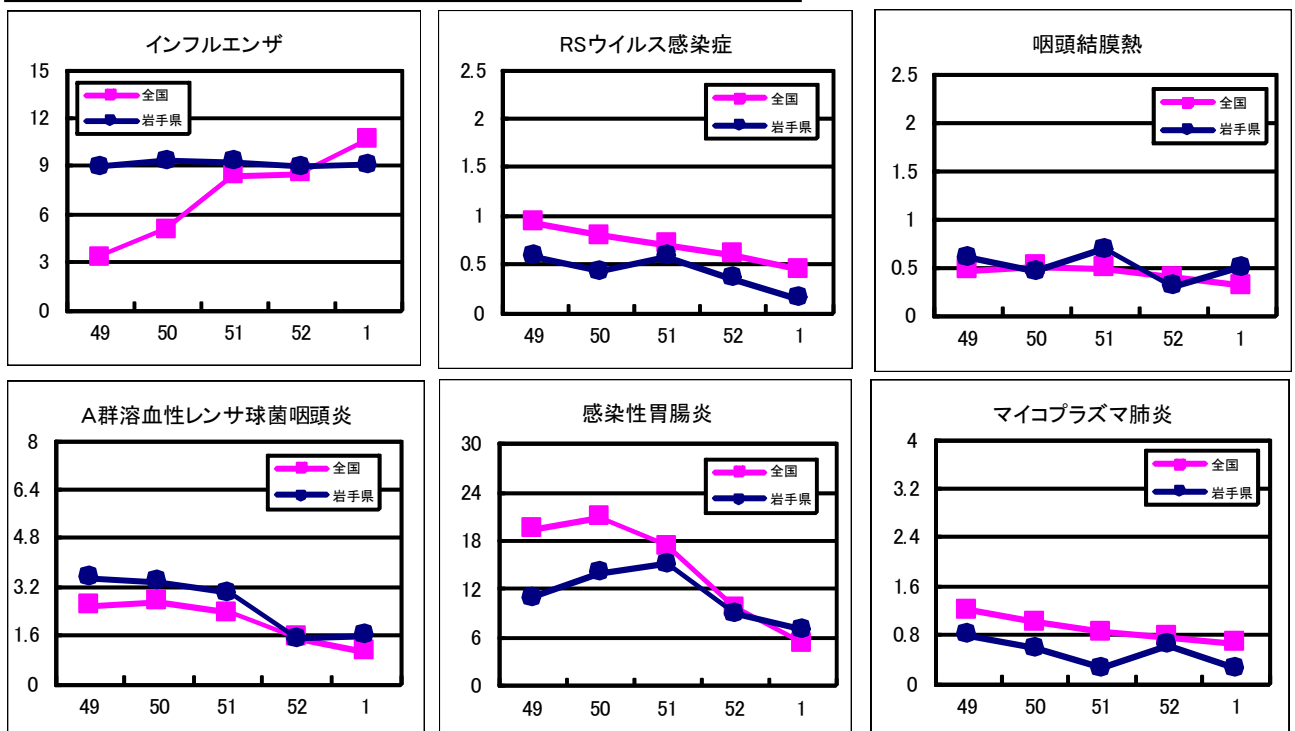
岩手県感染症情報センター

第1週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 3 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 4 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症（全数把握対象疾患）
 - ・ 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が盛岡市から1例ありました。
- 5 類感染症（定点把握対象疾患）
 - この週は年始で休診の医療機関もあり、患者報告数は全体的に少なくなっています。
 - インフルエンザは、奥州、一関、久慈地区及び盛岡市で注意報値（定点あたり患者数10人）を超えました。この週は20歳以上が66%と多くなっています。症状がある場合は咳エチケットを心がけ、早めに受診することが勧められます。帰宅後の手洗い、睡眠や食事をはじめとした体調管理による予防が重要です。
 - 感染性胃腸炎は、前週より減少しましたが、この週も集団感染事例が報告されました。集団感染事例は昨年11月からこれまでに、保育所を中心に36件報告されています。調理前や食事前、トイレの後に石けんと流水による十分な手洗いを行うこと、患者の吐物や便は使い捨ての手袋やマスクを着用し、塩素系薬剤で処理することが重要です。
 - 冬休みが終わり、学校等では集団生活が再開されます。感染症が流行する可能性が高まるので、注意が必要です。手洗いやうがいをはじめとした、基本的な感染予防対策が重要です。
 - 海外へ渡航し、帰国後に体調が悪くなった場合は、受診の際に渡航歴を伝えることが重要です。

最近の注目疾患（定点あたり患者数の過去5週の動き）

（疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意）



定点把握対象疾患（過去5週の動き）

報告週対応表 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2013年第42週より感染性胃腸炎（ロタウイルス）が定点把握対象疾病となりました。

（定点あたり患者数）

疾病名	地域	週					流行傾向	
		49	50	51	52	1		
インフルエンザ	岩手県	8.94	9.29	9.28	8.95	9.09	→	☆
	全国	3.31	5.02	8.38	8.54	10.58		
RSウイルス感染症	岩手県	0.58	0.43	0.58	0.35	0.15	→	☆
	全国	0.93	0.79	0.7	0.6	0.45		
咽頭結膜熱	岩手県	0.6	0.45	0.68	0.3	0.5	→	☆
	全国	0.46	0.51	0.48	0.39	0.31		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	3.48	3.35	3	1.48	1.6	→	☆
	全国	2.56	2.72	2.36	1.54	1.06		
感染性胃腸炎	岩手県	10.98	13.98	15.15	9	7	↘	☆
	全国	19.45	20.89	17.28	9.64	5.31		
水痘	岩手県	0.35	0.63	0.35	0.4	0.3	→	☆
	全国	0.65	0.65	0.6	0.51	0.57		
手足口病	岩手県	0.23	0.1	0	0.05	0.05	→	
	全国	0.52	0.43	0.39	0.24	0.16		
伝染性紅斑	岩手県	0	0.05	0.05	0.05	0.05	→	
	全国	0.13	0.13	0.13	0.08	0.09		
突発性発疹	岩手県	0.4	0.3	0.35	0.13	0.43	→	☆
	全国	0.38	0.4	0.38	0.27	0.26		
百日咳	岩手県	0	0	0.03	0	0	→	
	全国	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.28	0.18	0.1	0.1	0.05	→	
	全国	0.09	0.09	0.07	0.05	0.03		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.68	0.63	0.73	0.48	0.4	→	☆
	全国	0.99	0.97	0.88	0.72	0.83		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.07	0.5	0.5	0.36	0.43	→	☆
	全国	0.67	0.71	0.69	0.54	0.58		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0.05	→	
	全国	0.01	0	0.01	0.01	0.01		
無菌性髄膜炎	岩手県	0.16	0.05	0	0	0	→	
	全国	0.03	0.05	0.03	0.02	0.03		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.79	0.58	0.26	0.63	0.26	→	☆
	全国	1.21	1.01	0.84	0.76	0.67		
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.02	0.02	0	0.01		
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	岩手県	0.11	0	0	0	0.05	→	
	全国	0.05	0.06	0.05	0.07	0.05		
インフルエンザ（入院患者） ※報告数であることに注意	岩手県	10	18	24	9	16		
	全国	164	238	437	436	718		

【流行傾向の見方】

- 無印：ほとんど患者が発生していません
- ☆：患者が発生しています
- ☆☆：警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆：多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 49	50	51	52	1	累計	1	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	4 (2)	3 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	187	187
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	3	3
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	0	0	0	9	9
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	0
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	2	2
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	1	1
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	0
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	3	3
	デング熱	0	0	0	0	0	0	3	3
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	0
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	
ポツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0	
マラリア	0	0	0	0	0	0	1	1	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	0	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	0	0	0	0	0	0	20	20	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 49	50	51	52	1	累計	1	累計
五 類 感 染 症	アメーバ赤痢	1	0	1	0	0	0	8	8
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	1	0	0	0	4	4
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	1	0	0	0	9	9
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	1	0	1	0	0	0	6	6
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	0	0	0	0	0	6	6
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	5	5
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	6	6
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	1	1	44	44
	水痘 (入院例)	0	0	0	1	0	0	3	3
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	1	0	0	26	26
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	破傷風	0	0	0	0	0	0	1	1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	2	2
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	0
麻しん	0	0	0	0	0	0	2	2	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	

今注目の感染症

マイコプラズマ肺炎

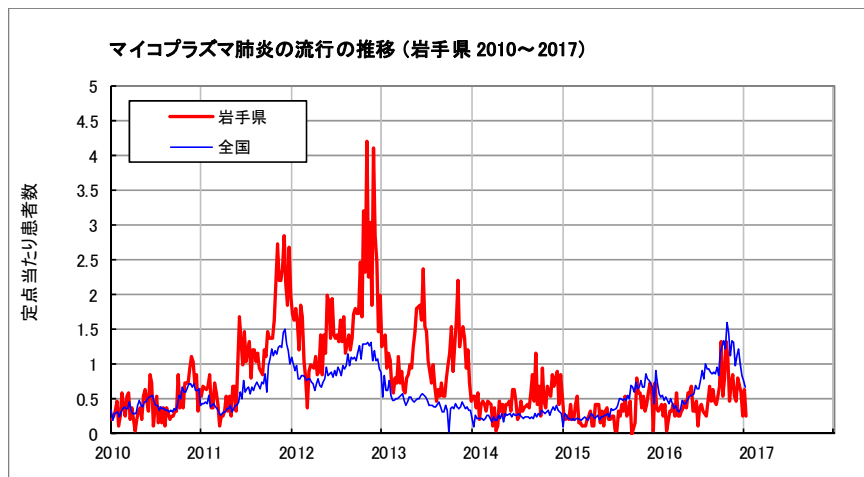
マイコプラズマ肺炎は、マイコプラズマという小型の細菌によって引き起こされる呼吸器感染症です。患者はどの年齢層でも認められますが、特に幼児期・学童期に多く見られます。感染経路は、飛沫及び接触感染であり、潜伏期間は2～3週間です。症状は、発熱や全身倦怠感、本疾患に特徴的な長く続く乾いた咳 (痰を伴わない咳) などがみられます。

マイコプラズマは、細胞壁を持たないため、ペニシリン系やセフェム系などの細胞壁合成阻害の抗菌薬は効果が無く、マクロライド系やテトラサイクリン系の抗菌薬が使用されます。

手洗いやうがい、患者との濃厚接触を避けるといった基本的な予防対策が重要となります。全国的に流行しているので注意が必要です。

参考 国立感染症研究所 マイコプラズマ肺炎とは

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/503-mycoplasma-pneumoniae.html>



今注目の感染症 (つづき)

インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症です。潜伏期間は1～3日間と短く、38℃を超える発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛等の全身症状が突然現れます。

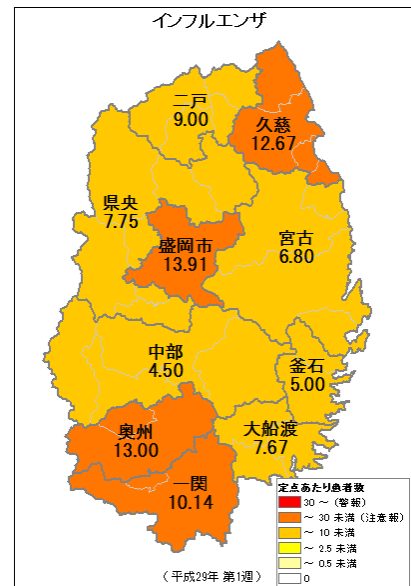
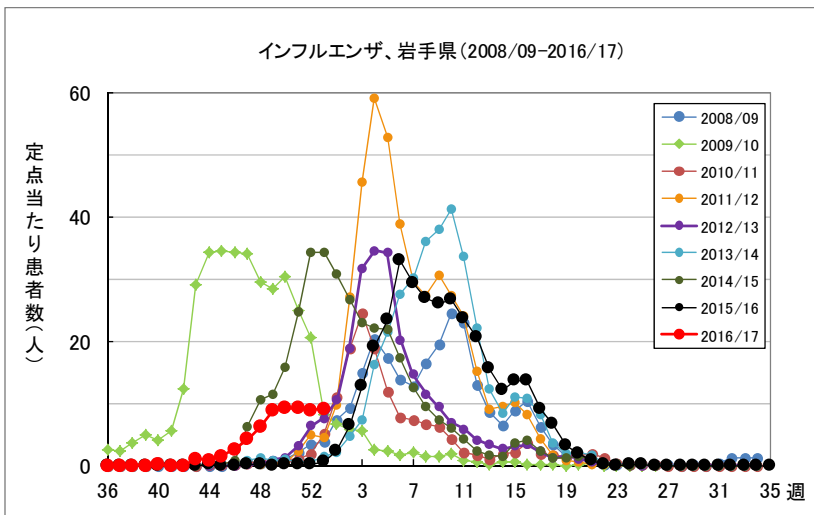
岩手県では、例年11月下旬～12月上旬頃に発生が始まり、翌年1～3月頃に患者数が増大します。今シーズンは、第45週に県全体の定点あたり患者数が1.54人となり、流行開始のめやすである1.0人を上回り、例年より早く流行入りしました。2017年第1週は、県全体の定点あたり患者数は9.09人でした。奥州、一関、久慈地区及び盛岡市で注意報値(定点あたり患者数10人)を超えています。

県環境保健研究センターで実施したウイルス検査では、A香港型ウイルスが検出されました。今シーズンはA香港型の検出が続いています。

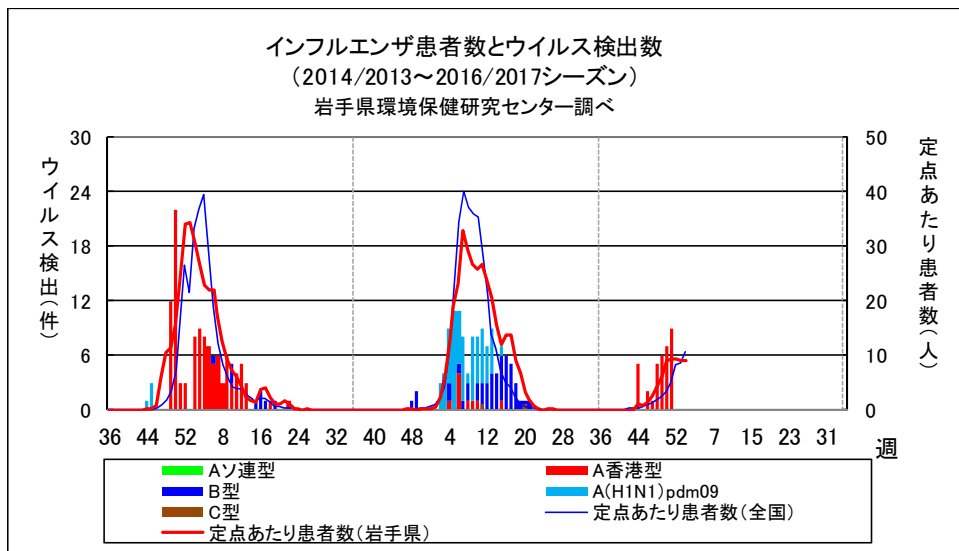
飛沫感染対策としての咳エチケット(有症者自身がマスクを着用し、咳をする際にはティッシュやハンカチで口を覆う等の対応を行うこと)、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生を徹底することが重要です。

今年度のインフルエンザワクチンは昨年度と同様に、A型2種類(H1N1、H3N2)、B型2種類(山形系統、ビクトリア系統)の計4種類が含まれた4価ワクチンです。ワクチンの予防効果が現れるのは、接種後2週間から5ヶ月程度と考えられています。早めの接種が勧められます。

参考 国立感染症研究所 インフルエンザとは <http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/219-about-flu.html>



※インフルエンザシーズンは第36週から翌年第35週まで



今注目の感染症 (つづき)

感染性胃腸炎

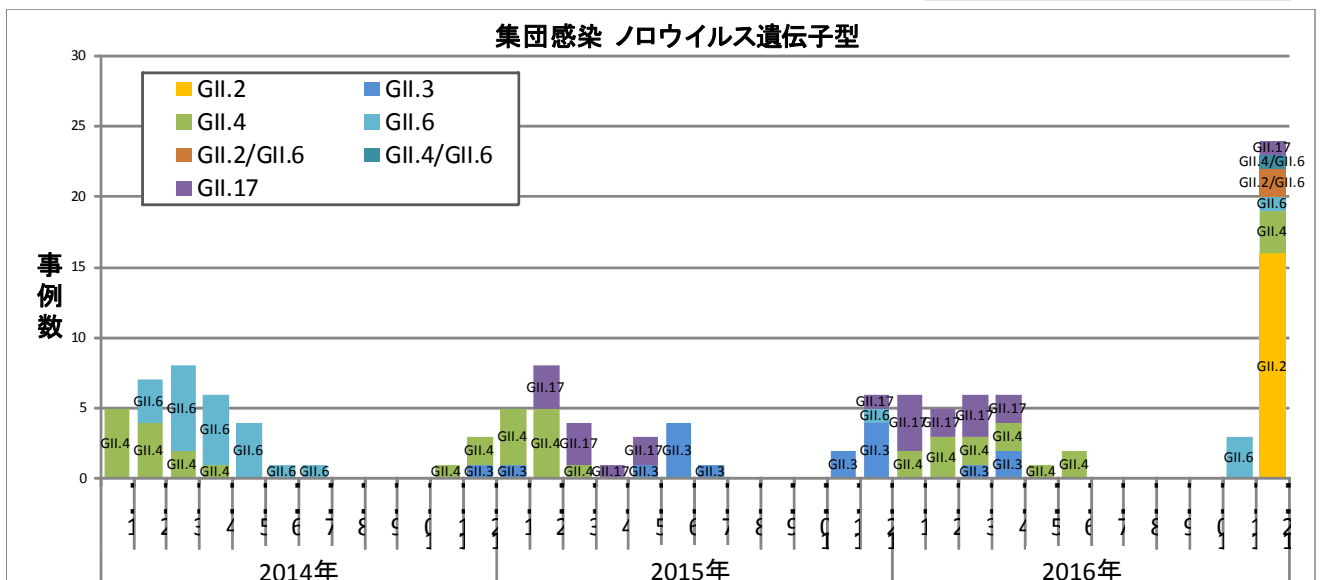
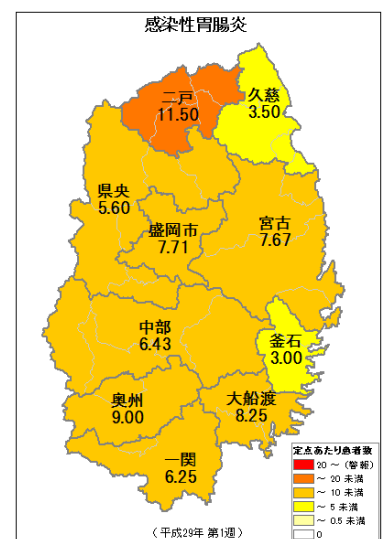
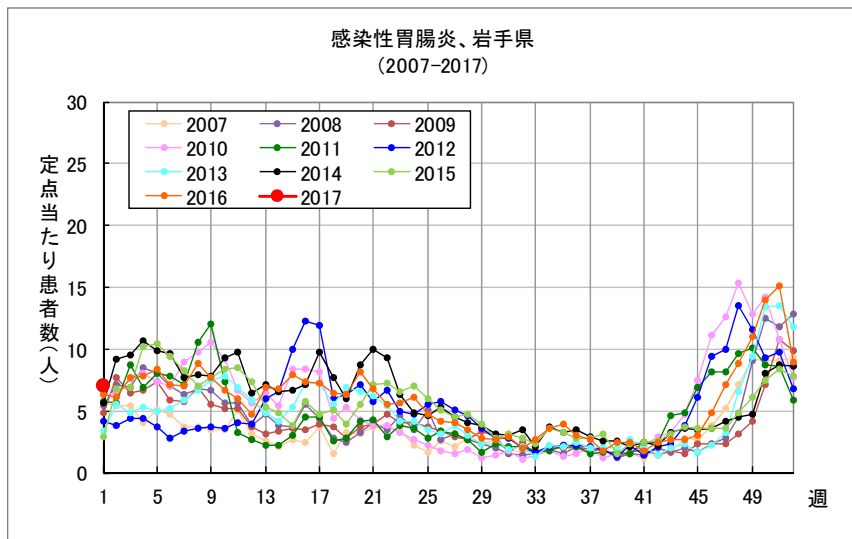
感染性胃腸炎は、細菌やウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。毎年秋から冬にかけて流行し、その原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスが大部分を占めています。近年では、流行の前半ではノロウイルスが、後半ではロタウイルスが患者から多く検出されています。

感染性胃腸炎の報告数は、例年11月頃から増加し、12月にピークを迎えます。岩手県においては、2017年第1週の県全体の定点あたり患者数は7.00人となりました。例年よりも患者数が多いので注意が必要です。また、保育所等における集団感染事例も相次いでおり、その多くがノロウイルスの感染によるものです。保育所や老人福祉施設など、集団生活を営む施設では、感染予防対策の再確認が勧められます。県環境保健研究センターが実施した検査では、これまでGII.3、GII.4、GII.6、GII.17が主に検出されてきましたが、2016年12月はGII.2が多く検出されています。

感染性胃腸炎の主な原因となるウイルスは、感染力が非常に強く、少量のウイルスでも感染するので注意が必要です。予防には、調理前や食事前、トイレの後などに石けんと流水による十分な手洗いを行うこと、患者の吐物や便を処理する際は、使い捨ての手袋やマスクを着用し、塩素系薬剤を使用すること、食品を十分に加熱することが重要です。

参考 厚生労働省 ノロウイルスに関するQ&A

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunva/kenkou_irvou/shokuhin/svokuchu/kanren/yobou/040204-1.html



今注目の感染症 (つづき)

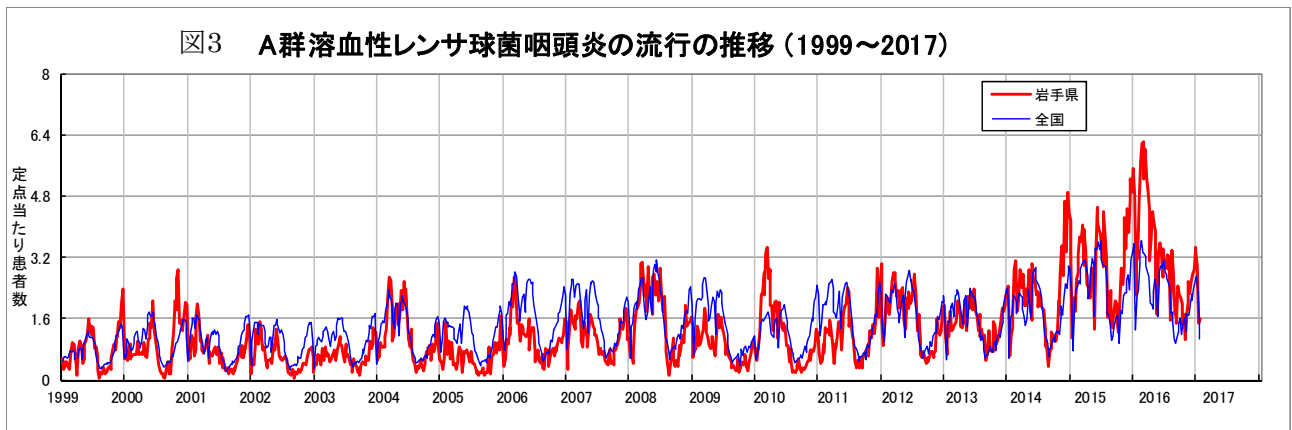
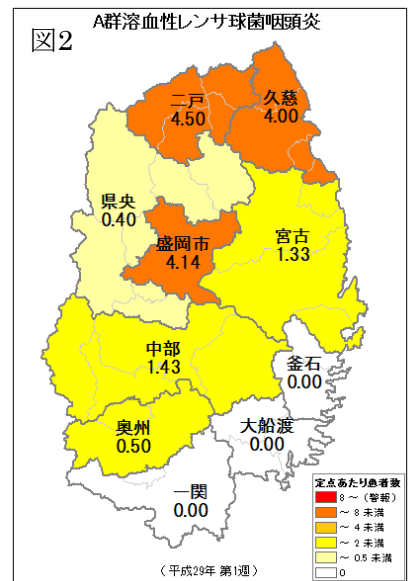
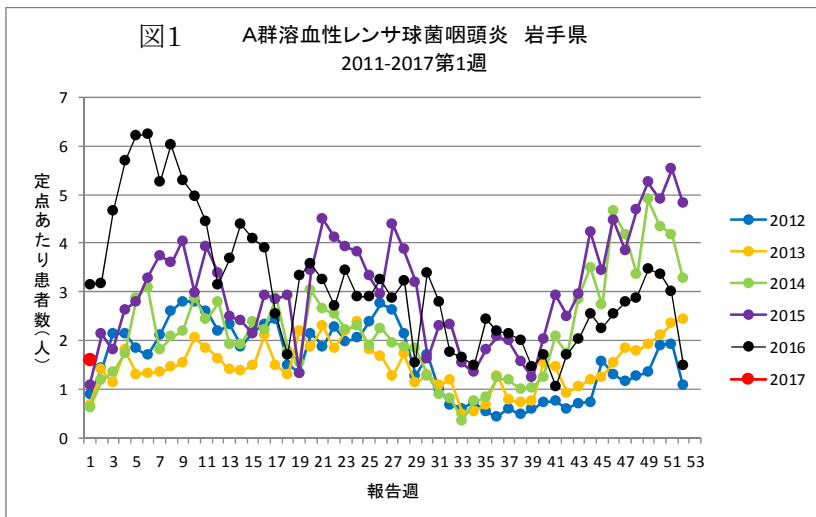
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌による急性咽頭炎です。潜伏期間は2～5日で、突然の発熱、咽頭炎、全身倦怠感によって発症し、体幹に発疹を伴うことがあります。感染後、急性腎炎を併発することがあるので、7～10日間の抗菌剤内服が重要です。予後良好な疾患ですが、菌が産生する毒素に免疫がない場合には猩紅熱に発展する場合があります。

予防には、患者との濃厚接触を避けること、うがいや手洗いなどの励行、マスクを用いた咳エチケットが重要です。

岩手県での発生状況は、2014年の第41週から、他の年に比較して多い状況が続いています(図3)。2016年の第6週には、県全体の定点あたり患者数6.23人と、調査を開始した平成11年以降で最多の報告数となりました(図1)。その後減少しましたが、例年より報告数が多くなっています。2017年第1週は、警報値(定点あたり患者数8人)を超えた地区はありませんでしたが(図2)、引き続き注意が必要です。

参考 国立感染症研究所 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/340-group-a-streptococcus-intro.html>



病原体検出情報

- ・この週には病原体検出情報はありません。

集団感染情報

○感染性胃腸炎の集団発生について

一関市内の保育所（園児101名、職員23名）

- ・12月19日（月）から1月1日（日）までに、27名（園児24名、職員3名）に症状（嘔吐、下痢等）
- ・有症者4名からノロウイルスを確認

盛岡市内の保育園（園児119名、職員28名）

- ・1月5日（木）から1月11日（水）までに、16名（園児15名、職員1名）に症状（嘔吐、下痢、発熱、腹痛等）
- ・有症者6名からノロウイルスを確認

○インフルエンザによる学校等の休業措置について（12月26日～12月27日発表分）

- ・岩手県 2件
- ・盛岡市 0件

詳細は岩手県医療政策室のホームページを御覧ください。

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/Influ/index.html>

医療機関からの情報

- ・この週には医療機関からの情報はありません。

Q & A

読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。

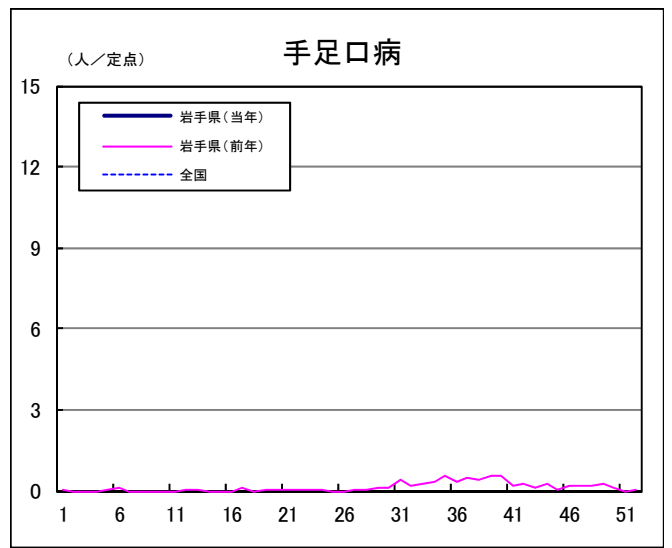
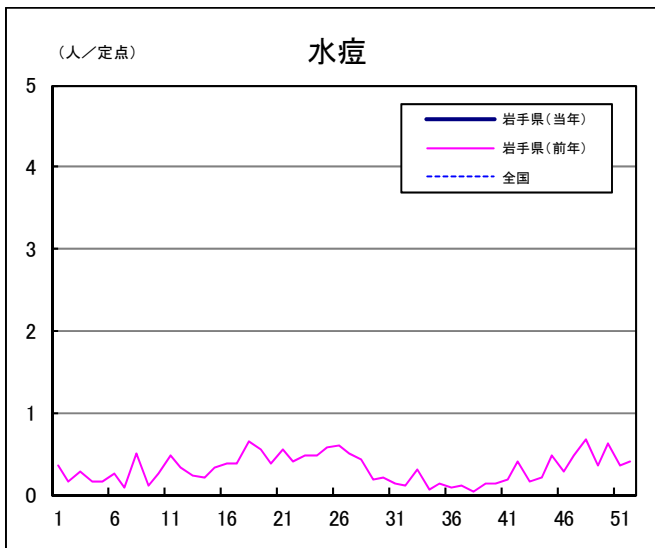
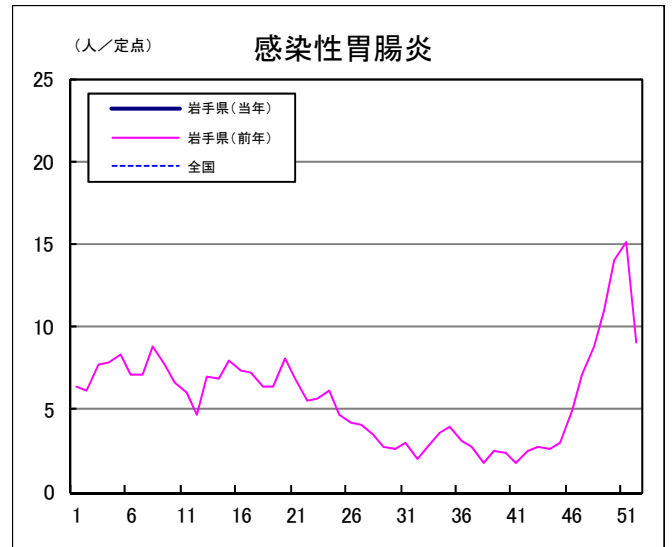
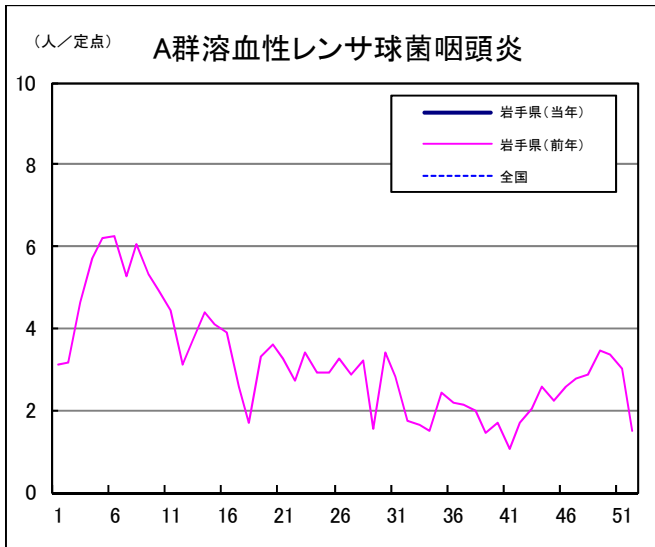
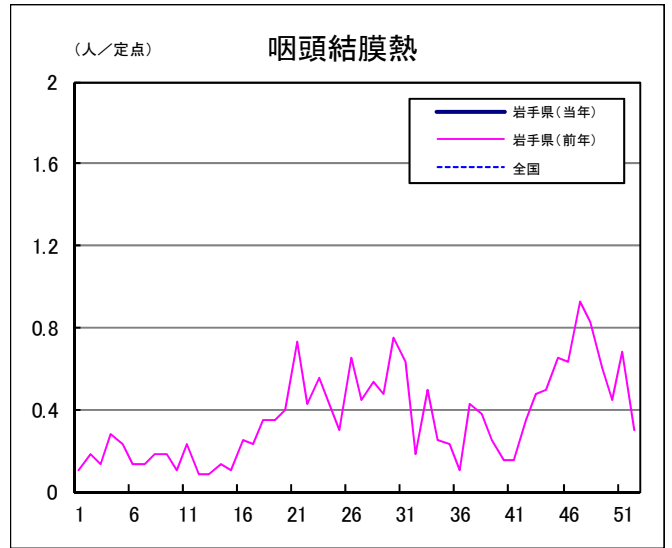
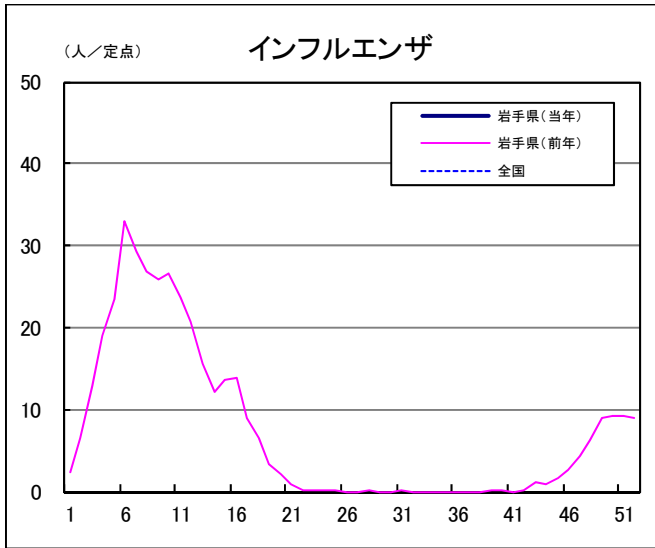
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）

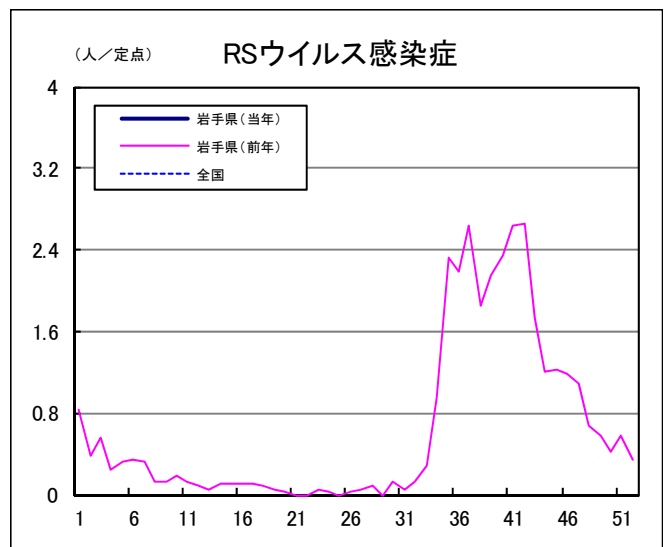
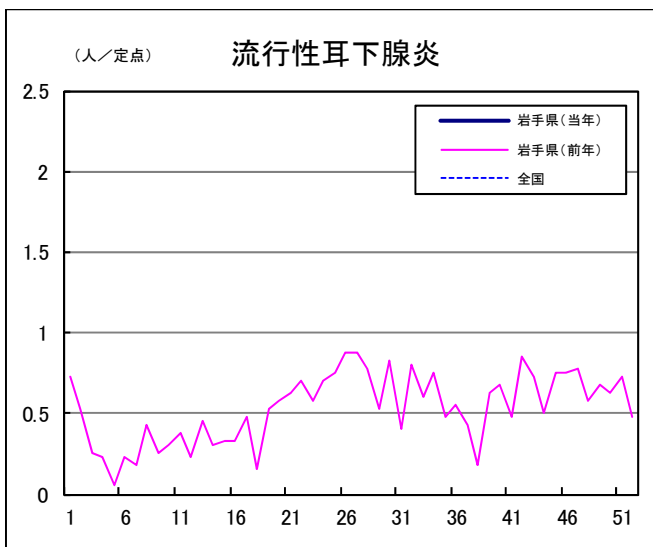
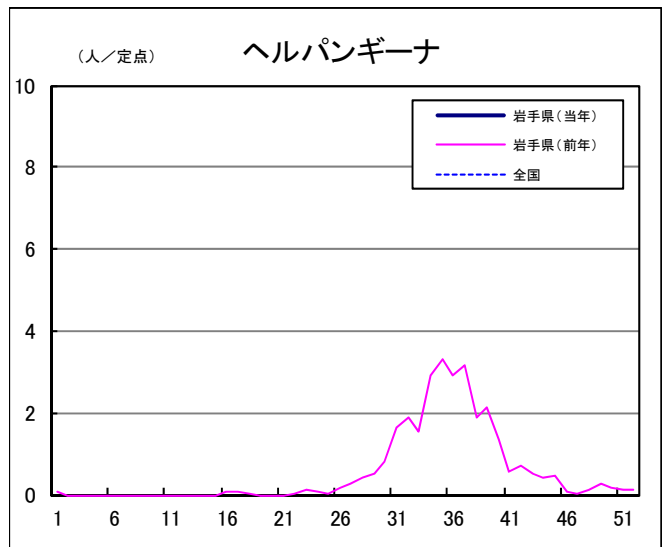
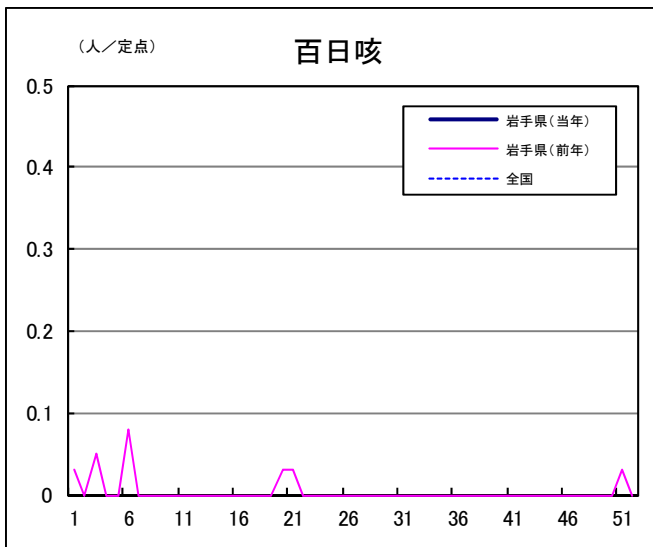
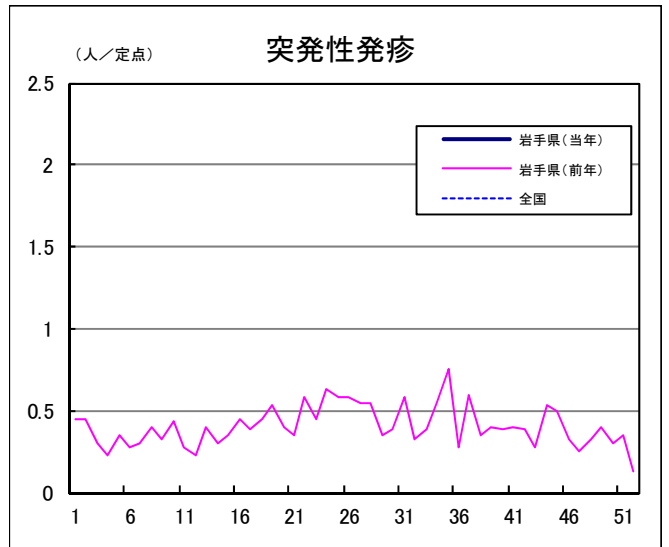
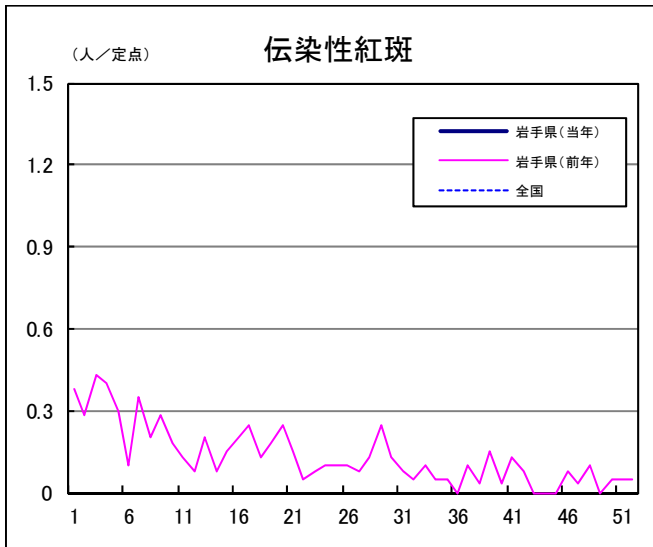
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

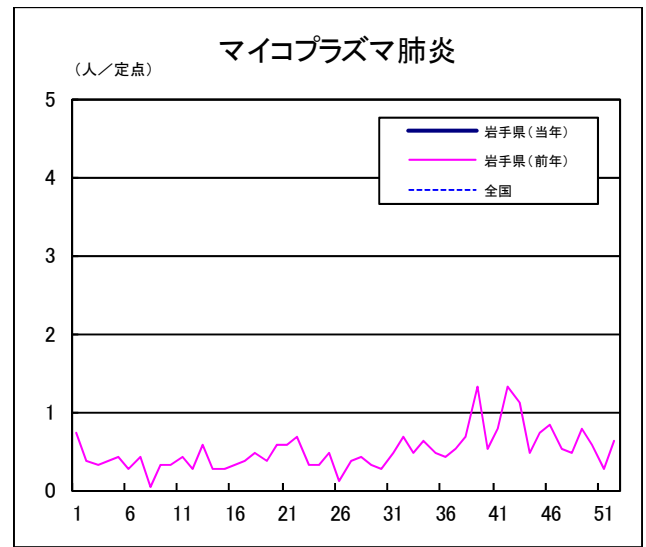
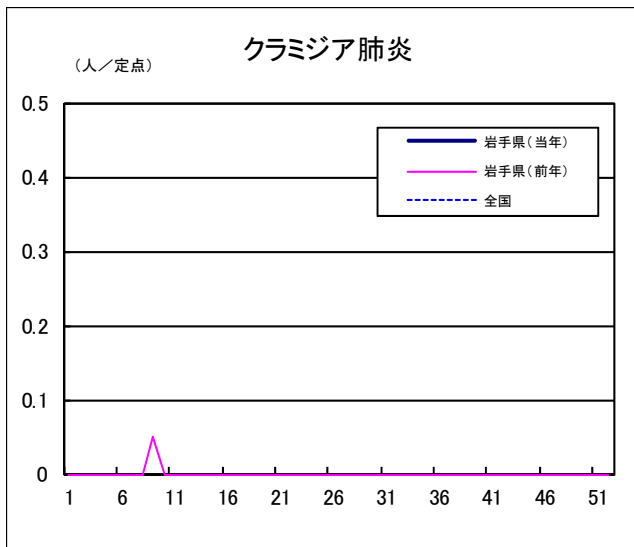
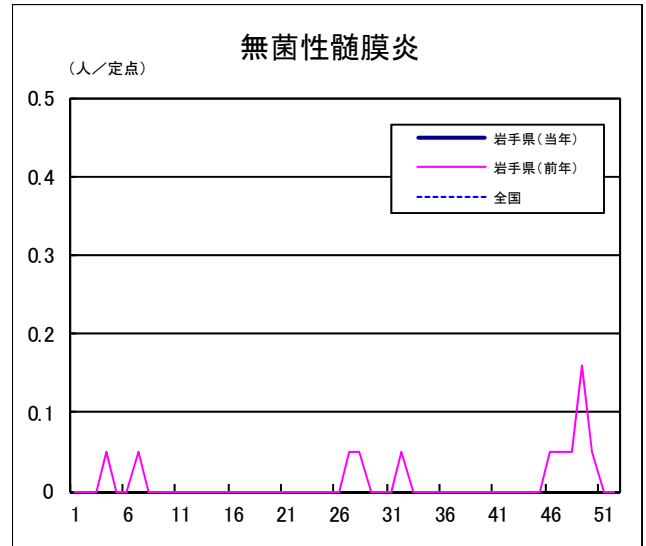
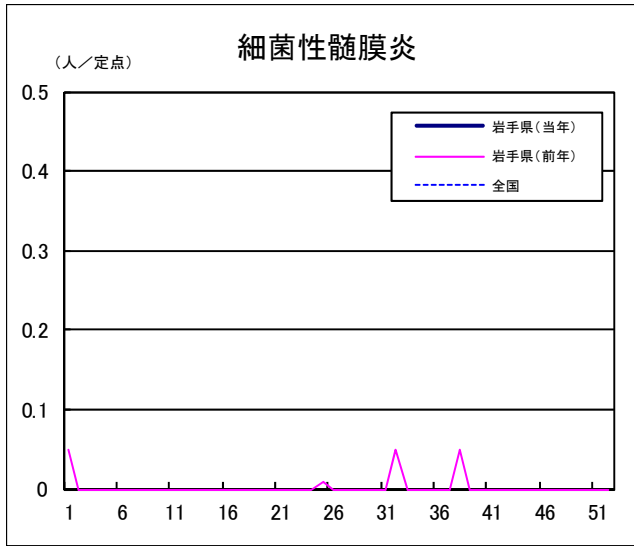
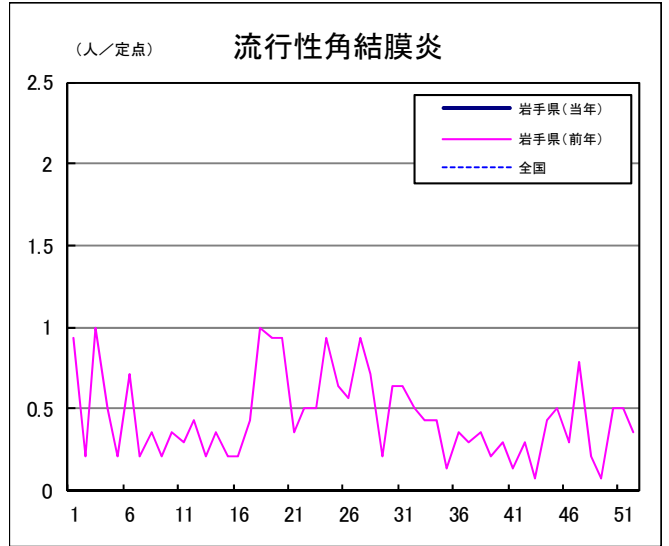
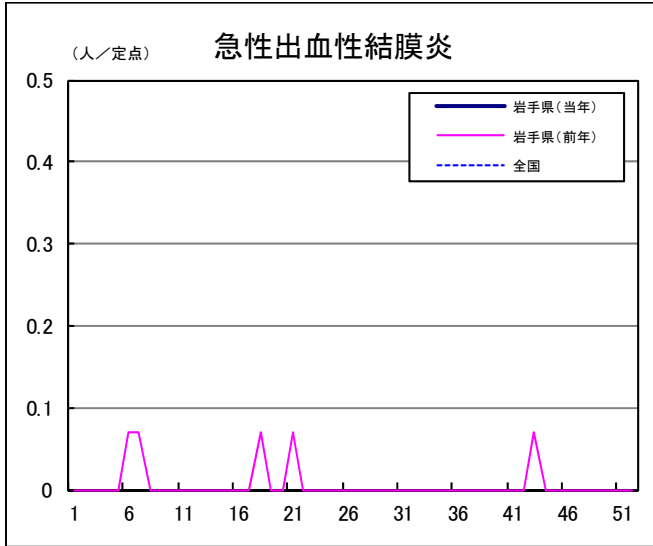
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別	インフルエンザ	小児科定点	眼科定点	基幹定点
岩手県		65	40	14	19
盛岡市		11	7	3	5
県央		8	5	2	0
中部		12	7	2	4
奥州		7	4	1	2
一関		7	4	1	2
大船渡		6	4	1	1
釜石		3	2	1	1
宮古		5	3	1	1
久慈		3	2	1	1
二戸		3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成29年第1週 平成29年1月13日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>